

○研究タイトル

東北地方太平洋沖地震後の 陸中海岸地域における 観光資源の状況把握調査

○研究担当者：寺崎竜雄、大隅一志、山田雄一、中野文彦、菅野正洋、
安達寛朗、中島泰、吉谷地裕、五木田玲子、清水雄一、
柿島あかね、外山昌樹、高橋葉子

○担当者からのメッセージ

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う東日本大震災におきまして、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。また、被災自治体をはじめとした関係者の皆さまの復旧・復興支援活動へのご尽力につきまして、深く敬意を表します。

陸中海岸国立公園を有する陸中海岸地域は、日本有数のリアス式海岸などの特徴ある自然美や、海と人々の生活や産業が結びついた地域の姿などに触れることを目的として多くの観光客が訪れていた地域ですが、東北地方太平洋沖地震は、それら観光資源に甚大な被害をもたらしました。

被災地域においては、地域経済の復興が重要な取り組み課題であり、観光の着実な復興はその大きな推進力になるものと考えます。本調査は上記のような背景を踏まえ、陸中海岸地域の観光資源の地震後の状況を把握するとともに、課題を抽出することを通して、同地域の今後の観光復興への取り組みにおける基礎的な資料としていただくことを目的に実施したものです。

観光資源の現状把握に当たっては、地震発生から約2カ月が経った平成23年5月中旬から下旬にかけて、当財団の研究員が実際に調査員として現地に赴き目視した内容を基にしています。

本調査の結果を、復興に携わる自治体や関係者の皆さまの活動に少しでもお役立ていただければ幸いです。

○報告書目次

第1章 陸中海岸地域の観光資源の現状把握

- 1-1 調査方法
- 1-2 調査結果の一覧
- 1-3 市町村別の調査結果

第2章 陸中海岸地域の観光復興に向けた論点整理

- 2-1 観光資源の状況
- 2-2 観光復興に向けた論点

- 参考資料1 対象地域の観光の状況
- 参考資料2 対象地域の市町村別概要

1 研究の目的と方法

1. 研究の目的

陸中海岸地域の観光資源の地震後の状況を把握するとともに、課題を抽出することを通して、同地域の今後の観光復興への取り組みにおける基礎的な資料としていただくことを目的として実施した。

2. 研究の方法

①調査対象とする観光資源の抽出

陸中海岸国立公園周辺の14市町村を対象とし、各種情報源を参考に調査対象とする対象地域内の観光資源を抽出した。

②現地調査の実施

調査員が現地に赴き、目視により状況を把握した。

2 研究結果の概要

1. 市町村別の調査結果

市町村	概況
久慈市	沿岸部の人工の観光資源については、地震による津波によって全壊している状況で、全く元の姿をとどめていない。一方、内陸部の観光施設、並びに沿岸部でも景勝地となる岩などの自然資源そのものには影響は見られない。
野田村	内陸部の観光施設や沿岸部でも現存している自然観光資源を中心に、安全な利用のためのインフラ整備に努め、観光ルートの再構築に向けた検討が重要である。
普代村	代表的な海岸景勝地であり断崖上部の観光利用が中心となる黒崎一帯はほとんど被害が見られない。一方、当村のもう一つの魅力である海浜レクリエーション面では、景勝地でもあった「普代浜」や「まついそ公園」の施設や松林等が地震により消失している。
田野畑村	陸中海岸国立公園の代表的な景勝地である「北山崎」「鶴の巣断崖」とも、展望台からの海岸景観にはほとんど影響は見られない。しかし、断崖下の遊歩道、海浜、海岸などでは損壊や消失等の影響が見られる。また、シンボルであった机浜番屋群をはじめとする漁村風景や漁船の消失、漁港の損壊等の影響が見られる。
岩泉町	海岸部に位置する観光資源は、「茂師海岸」「熊の鼻」などであり、このうち、特に「茂師海岸」は津波による損壊が大きい。
宮古市	従来から宮古市の観光の中心であったリアス海岸特有の景観資源への影響は少ないものの、周辺のインフラやアクセス道に地震の影響が見られる。また、海水浴場3カ所（真崎海岸、女遊戸海岸、浄土ヶ浜海水浴場）にはキャンプ場が併設されており併せて利用されていたが、消失している。
山田町	船から鑑賞する資源が多く、町内や釜石市の漁港復旧と、観光船を確保しない限りは観光利用が困難である。「四十八坂」の展望台は施設の一部(柵)に軽微な影響が見られる。また、船越家族旅行村や山田漁港近辺の宿泊施設が損壊している。
大槌町	町全域が甚大な被害を受けており、沿岸部における多くの建造物が全壊、損壊している。観光施設や宿泊施設もその例外ではない。浪板海岸をはじめとした海岸の観光資源は、海浜そのものが消失している箇所が多い。
釜石市	海岸付近は地震の影響を直接的に受けているため、散乱しているがれきや損壊している建物などが目立つ場所も多い。また、がれきの撤去等が進めば、釜石港周辺の観光資源の被害は比較的軽微である。なお、「根浜海岸」については、海浜そのものが消失している。
大船渡市	吉浜海岸周辺、大船渡市街地周辺は、地震による被害により資源そのものが消失している。一方、大船渡市の観光の核である「基石海岸」一帯は、景勝地としての観光資源そのものの魅力は失われていない。
陸前高田市	海岸付近は津波の影響を直接的に受けているため、ほぼ建物はなく、散乱したがれきが目立つ。陸前高田市の中核的な観光資源である「高田松原」が消失しており、また沿岸部の道路は橋の消失などにより寸断されている。
気仙沼市	「大理石海岸」や「岩井崎」では、資源についての影響は見られないが、気仙沼観光の目玉であった「気仙沼市魚市場」など漁業に関連する施設に重大な影響が見られる。また、周辺のインフラ整備やアクセスの部分で地震の影響を受けている。一方、「巨釜・半造」は比較的被害は少なかった。
松島町	東北の観光の中心である松島の景観への影響は少なく、観光船などのアクティビティや寺社、水族館等の観光資源もいち早く営業を再開している。
東松島市	奥松島を含めた松島周辺地域は、地震による海浜等の景観や観光資源、食の魅力である水産資源等への影響が大きい。

2. 観光資源の状況

① 自然資源

ア 海浜（海水浴場）

海水浴場としての海浜は、その多くに損壊した堤防の破片などの構造物が打ち上げられているなど、安全性や景観などの面で重大な影響を受けている。また、資源そのものに対する影響はゴミや流木、がれきの散乱などの比較的軽微なものにとどまっていますが、シャワーやトイレなどの施設が損壊、消失しているなど、その多くが重大な影響を受けている。

イ 海浜（景勝地）

景勝地としての海浜は、その多くが、資源そのものが損壊などの重大な影響を受けていたり、または消失している。また、同時に海浜の背景としての松林なども、消失など重大な影響を受けているものもあり、一体的な景観ごと消失しているものも見られる。

海浜の景観は陸中海岸地域を象徴する重要な要素であり、また松林は防風林・防砂林として、あるいは緑陰を提供するなど、観光以外の面でも期待できることから、従前のような海浜と後背地の松林などが一体となった環境づくりに取り組んでいくことが望まれる。

また、団体バスや自家用車などによる周遊型の観光が中心である同地域においては、車窓からの海浜の景観も観光客にとっては地域イメージを印象づける重要な要素であることから、沿道からの視線を意識した景観づくりも必要となる。

ウ 島（遠景としての眺望対象）

遠景としての眺望対象としての島については、資源そのものに対する影響は比較的軽微なものにとどまっていますが、例えば船上から楽しむものについては、遊覧船が営業停止しているために観光利用が不可能となっているなど、利用に当たって影響が見られる。

また、遠景からは影響が見られなくても、植生に重大な影響が見られるなど、近景として楽しむに当たって重大な影響が見られるものもある。

エ 岩・岬・島（洋上・陸上の展望施設からの眺望対象）

洋上・陸上の展望施設からの眺望対象としての岩や岬、島については、その多くが資源そのものに対する影響は見られない。また、その多くが展望施設などの利用の面でも影響は見られないが、一部において通行やトイレ施設などの安全性や利便性の面で軽微な影響が見られるものもある。



女遊戸海水浴場（宮古市）



青松島と椿島（松島市）



碁石岬展望台（大船渡市）

② 観光施設・人文資源

ア 観光施設・キャンプ場

沿岸部に立地している観光施設やキャンプ場については、地震によって資源（施設）そのものが損壊や浸水といった重大な影響を受けているものがある。

一方、内陸部に立地しているものについては、その多くが資源（施設）そのものには影響が見られない。ただし、その場合にも施設が被災者の避難所や仮設住宅用地として利用されて

いたり、ボランティアセンターや自衛隊など震災復旧（復興）関係者の拠点として利用されていたりするなど、その多くは観光利用が不可能な状況にある。

また、海浜に隣接しているキャンプ場などは資源（施設）そのものが消失しているものがある。

イ 地域景観（町並みなど）

観光資源としての番屋など魚村の町並みや港町の町並みのうち、沿岸部に立地しているものについては、損壊など重大な影響が見られるものや、資源そのものが消失しているものは少ない。

ウ 社寺仏閣

観光資源としての社寺仏閣は、その多くが内陸部（高台）に立地しており、影響は少ない。



中の浜キャンプ場炊事場（宮古市）



机浜番屋群跡地（田野畑村）



黒崎神社（陸前高田市）

3. 地域別に見た状況

① 北部

洋上や陸上の展望施設から楽しむ対象としての岩や岬、島などの景観資源については、北山崎（田野畑村）や浄土ヶ浜（宮古市）、熊の鼻（岩泉町）など、主に陸中海岸地域の北部に多く分布しているが、それらについては資源そのものに対する地震の影響は比較的軽微なものが多い。ただし、そのような資源のうち、日出島やローソク岩（いずれも宮古市）など、船上から楽しむものについては、遊覧船が営業停止しているために観光利用が不可能となっている。



第1展望台からの北山崎（田野畑村）



浄土ヶ浜（宮古市）



熊の鼻展望台からの眺望（岩泉町）

② 南部

陸前高田市や大槌町などを中心とする陸中海岸地域の南部では、いわゆる「ほくしやせいしょう白砂青松」と呼ばれるような海浜とその背景としての松林などの景観が存在しているが、資源そのものが消失している場合もあり、その際には新たな魅力を持った資源を創出する必要がある。



高田松原 (陸前高田市)



浪板海岸 (大槌町)



碁石海岸 (大船渡市)

③ 全域

三陸海岸観光において代表的な立ち寄り箇所である北山崎 (田野畑村)、浄土ヶ浜 (宮古市)、龍泉洞 (岩泉町) といった観光資源については、資源そのものに対する地震の影響は比較的軽微であるが、観光資源を快適かつ安全に利用するためのトイレやゲストハウスなどの施設が被害を受けている。

海水浴場としての海浜については、十府ヶ浦 (野田村) や普代浜 (普代村)、真崎海岸、女遊戸海水浴場 (いずれも宮古市)、浪板海岸 (大槌町) など、陸中海岸地域の全域にわたり、重大な影響を受けているものが見られる。

また、普代浜や女遊戸などの海水浴場では、海浜に隣接して立地するキャンプ場についても、それらの多くで資源 (施設) そのものが消失している。

また、観光施設について見ると、もぐらんぴあ (久慈市) や鯨と海の科学館 (山田町)、海と貝のミュージアム (陸前高田市) など、陸中海岸地域の全般にわたり、沿岸部に立地しているものについてはほぼ例外なく地震で重大な影響を受けて営業を停止するなどしている。

一方、観光施設のうち、内陸部に立地しているものについては施設そのものに対する影響は見られないものの、施設が被災者の避難所や仮設住宅用地として利用されていたり、ボランティアセンターや自衛隊など震災復旧 (復興) 関係者の拠点として利用されていたりするなど、その多くは観光利用が不可能な状況にある。



浄土ヶ浜付近のトイレ (宮古市)



普代浜園地キャンプ場 (普代村)



海と貝のミュージアム (陸前高田市)

観光資源の現状を踏まえ、陸中海岸地域の観光復興に向けた取り組みを検討するに当たって、論点となることが想定される主な項目を以下のとおり抽出した。

3 まとめ

1. 基本的な考え方

- 地域社会 (住民や地域団体) が主体となった観光復興の方向性の検討
- 観光的な魅力を持ったコミュニティー (「結い」の力や知恵を活かした生活文化) の創出
- 観光を活かした地域産業の育成 (「漁業」と海資源を活用した観光の連携)
- 陸中海岸地域らしい海辺の風景の創出

- 非常時における観光客の安全確保（避難路の確保と日常的メンテナンス、非常時の情報伝達と避難誘導）
- 周遊型観光を受け入れる宿泊拠点の創出

2. 新たな魅力の創出

- 周遊型観光の復興
 - 例：代表的な立ち寄り箇所であり、地震の影響が軽微な「北山崎」（田野畑村）、「浄土ヶ浜」（宮古市）、「龍泉洞」（岩泉町）を核とし、新たな内陸資源と組み合わせた周遊型観光の復興
- 復興プロセスと観光の融合
 - 例：ボランティア観光ツアー、復興の象徴としての「高田松原」の一本松の再生および植林、アワビやワカメのオーナー制度
- 観光的視点に配慮したインフラ整備
 - 例：観光対象となる港湾施設や堤防、車窓からの景観を意識した沿道の環境整備
- 「陸中ジオツーリズム」のプログラム化
 - 例：モニュメントパーク（被災状況の保存）、避難路にもなる遊歩道、陸中海岸地域に特有のリアス海岸地形と地震の痕跡を活用した環境学習
- 生活文化観光の推進
 - 例：観光客が住民とふれあい、暮らしに学びながら地域に貢献する新しい観光・交流スタイル
- エコツーリズムを通じた地域資源の活用と管理
 - 例：解説つきツアーの開発、海岸トレッキング、海辺の生き物観察

（付記事項）

- ・本調査における観光資源の状況把握や論点抽出に当たっては、調査員の目視によって把握できた範囲の情報を基にしており、詳細な状況把握については別途関係者への聞き取り調査などを行うことが必要である。
- ・本調査は観光客を引きつける魅力の源泉となる観光資源の状況把握に主眼を置いて実施したが、陸中海岸地域における観光振興を検討するに当たっては、下記のような項目についても、より詳細な状況把握を行うことが重要となる。

- | | |
|------------------|--|
| ○宿泊業 | ○交通・運輸 |
| ・宿泊施設や事業者の状況 | ・鉄道（施設や設備、事業者の状況） |
| | ・バス（ " ） |
| ○農業・漁業 | ○土産品 |
| ・機材や設備、人材の状況 | ・製造（施設や事業者の状況） |
| | ・販売（ " ） |
| ○体験観光（自然体験プログラム） | |
| ・拠点とする施設 | |
| ・使用する設備や機材 | |
| ・実施のためのノウハウや人材 | |